

「手賀沼 魚類・貝類調査」

手賀沼水生生物研究会

鈴木盛智

2021年9月12日(土)9:00~15:00 参加10名 天気:曇り

調査はモンドリによる定量調査とガサガサによる定性調査を並行して行った。



場所	親水広場棧橋	根戸新田	見晴台	FC 棧橋	片山新田	岩井新田
緯度	35.86173	35.86661	35.85713	35.85103	35.8502	35.85738
経度	140.02705	140.00145	140.04296	140.06487	140.06488	140.0379
時間	8:30-9:00	9:30-10:00	10:42-11:12	11:47-12:20	13:05-13:35	14:20-14:50
底質	泥>砂	泥=砂	泥=砂	泥>砂	泥=砂	泥>砂
モンドリ数	6個	6個	6個	6個	6個	6個
モツゴ	53	128	59	179	203	21
ツチフキ				3	1	
タイリクバラタナゴ	3	13	7	2	5	2
ヨシノボリ	1		2			
ヌマチチブ	1		1			
スジエビ	85	22	36	145	51	55
カダヤシ	3					
ブルーギル(幼魚)	1					
ガサガサ						
モツゴ		○	○		○	○
タイリクバラタナゴ		○			○	
タイバラ稚魚			○		○	○
ヨシノボリ		○	○		○	○
ヌマチチブ		○	○		○	
スジエビ		○	○		○	○
テナガエビ		○	○		○	○
シナヌマエビ		○				
タウンギ						
カダヤシ		○			○	
ブルーギル(幼魚)		○				○
貝類						
ドブガイ生体		1	6		15	
ドブガイ貝殻		1	4		16	
カラスガイ貝殻			1		1	5
ヒメタニシ						
特定外来生物(水生植物)						
ナガエツルノゲイトウ	○	○	○	○		○
オオバナキンバイ	○	○	○	○		○

- ・ 魚類について：魚種が少なく、スジエビが多い、モツゴ1歳魚が中心だった。移動中確認したのは、ハクレン・ボラ・ゲンゴロウブナ・マゴイで、ジャンプしていたハクレンは、2018年に確認した時と同じ大きさで、その後繁殖していないと推定された。
- ・ 二枚貝の調査について：これまで調査してこなかった岸沿いで多数確認、定例調査の見直しを検討する。
- ・ 昨年のハス大繁茂帯の消失とその下流域の岩井新田付近のガマ帯の消失による底質の悪化が昨年より改善したが、それでも生き物の生息には厳しい状況であった。ナガエ、オオバナの群生帯の下は、生き物の隠れ家になっていて、多く見られた。

